

★「なくそう！ 日米軍事同盟・米軍基地 2020年日本平和大会（オンライン）」成功に向けたとりくみの呼びかけ

2020年8月7日 第5回実行委員会

「なくそう！日米軍事同盟・米軍基地 日本平和大会」は、1986年以来毎年秋開催し、日米軍事同盟を根源とする、憲法9条改悪など日本を「戦争する国」にする動きや、沖縄への新米軍基地建設はじめ全国の基地強化に反対し、軍事費を削って暮らし・福祉・教育にまわすことを求めてきました。そして、日本がやるべきは、憲法にもとづく平和外交をすすめる、核兵器禁止条約に参加し、非核平和の北東アジアづくりの先頭に立つことだと訴えてきました。いま、新型コロナウイルスで広範な人々が命と暮らしの危機に直面しているなか、その訴えが共感を生む条件が広がっています。

世界でもコロナ禍のもと、利潤追求第一の新自由主義的政策が根本から問われ、大国が自国第一の覇権主義や核軍備競争にあけくれる姿に、厳しい批判が向けられています。最大の核軍事大国アメリカで世界最大の感染者が生まれ、死者はベトナム戦争など戦後アメリカが行った戦争での米兵死者総数を上回りました。このなかで、軍事力による国家の「安全保障」から国民1人ひとりの命と安全、尊厳を最優先する政治への転換を求める声が広がっています。

日本でも、安倍政権が新自由主義的政策をすすめてきたなかで感染が直撃し、国民の暮らしと営業・雇用が危機に直面しています。しかし安倍政権は、医療支援や生活補償に背を向け、アメリカ言いなりに沖縄・新米軍基地建設や高額な米製兵器の爆買いをおしすすめています。それだけでなく、憲法違反の「敵基地攻撃」=先制攻撃を米軍と共に行える体制をつくる大軍拡をおしすすめようとし、憲法9条改悪に執念を燃やしています。米軍基地内で感染が広がっているにもかかわらず、日米地位協定の下でその実態の詳細は闇に包まれています。いったい、日米軍事同盟最優先のこんな政治でいいのか？——そのことが鋭く問われています。

沖縄では、「新基地建設のための2・5兆円を県民生活に回せ」の訴えの中で、新基地建設反対勢力が6月の県議選で勝利しました。6000億円超と言われた「アメリカ防衛」のためのミサイル基地「イージス・アショア」配備計画は、秋田、山口県民のたたかいで断念に追い込まれています。いまこそ、コロナ危機のなかで政治のあり方に新たにに関心や疑問を持ち始めた広範な人々と語り合い、平和大会が訴えてきた平和の要求の実現めざす運動を広げるときです。

この大会に向けて発行された学習パンフレットは、その学習と対話の絶好の資料です。●学習パンフを各団体の構成員や広範な人々に広げ、学習し、議論の輪を広げましょう。●沖縄新基地建設反対はじめ、全国各地の基地強化反対、日米地位協定の抜本改定、敵基地攻撃=先制攻撃態勢づくりの大軍拡反対、「軍事費削って暮らし・コロナ対策へ」などの運動を、草の根から広げましょう。●発効60年を迎えた現行日米安保条約の問題点と廃棄が開く展望も、大いに学習し議論しましょう。

2020年日本平和大会は、やむなくオンラインで行いますが、その特徴を生かして、遠く離れた全国各地、世界各地を結んで、学習と交流を深める大会とします。また、それぞれの問題を現地の映像や画像で臨場感豊かに共有し、日本の平和の進路について、大いに考え合える大会にしていきたいと思います。これまでなかなか大会に参加する条件や機会のなかった方も、職場や家庭から大会に参加することができます。この大会に向け、パンフを使った学習・討論、諸運動を広げ、各地、各団体が青年はじめ広範な人々に大会にオンライン参加・視聴する輪を広げ、大会を成功させましょう。